

【2024 年度共同研究費 成果(経過)報告書】

外国にルーツがある介護労働者の食事介助に着目した映像教材の作成

野田由佳里1)*,松田愛美2),高橋由紀3)松山美紀4),齊藤美由紀5)

1) 聖隷クリストファー大学 2) 神奈川県立保健福祉大学 3) 北海道医療大学

4) 国際医療福祉大学 5) 日本福祉教育専門学校

- I. 目的** 外国人介護労働者の入国前研修の中の一カリキュラムに着目して利用者理解の動画を通して、日本での就労後に食事介助を円滑にできるよう、【日本の食文化】【日本の介護環境】【日本における食事介助の考え方】を整理し、解説を加えた動画作成により、多くの訪日介護労働者のリアリティショックの未然防止を目的とした。
- II. 方法** 取り組み期間を事前に四段階設定（アセスメント・計画・映像作成・映像の具体的使用例を検討）し、研究推進のため、リモート会議で打ち合わせを実施した。
- III. 結果** 月に1回のリモート会議、数回のメール会議、対面では、キックオフミーティング（6月29日30日）シナリオ作成ミーティング（10月26日）を行い、4事例とした。動画撮影（1月10日）では、39シーンの撮影を終えることができた。1月～3月には成果物の活用方法について、3回のリモート会議を実施した。
- IV. 考察** 2022・2023年度の研修モジュールに参画したメンバー研究協力者で、介護職員役、高齢者役を演じた。二か年の反省点から、時間管理や、事例設定が重要だという共通認識を持つことが、研究推進の要となった。また2023年度の事例に関して、数日間の生活の様子となるよう、場面設定も丁寧に行い、具体的には、事例の基礎情報を検討し、フェイスシート・情報収集シートに事例の情報を書き込み、情報に基づき、コミュニケーション、移動、排泄、入浴、食事、着脱、清潔、余暇支援、対人関係（他利用者、家族）、良いケア、悪いケア、好きな職員、嫌いな職員、ベテラン職員、新人職員について撮影シナリオを作成した。使用科目等を限定せず、事例を点や線で撮影することで、汎用性が高く、利活用のしやすさを更に重視した。2024年度の取り組みとして、食事が文化的な背景で日本との差に戸惑うことが一番多いと想定し、様々な内容を撮影した。実際に東南アジアで送り出し機関で入国前研修を担当する介護教員数名に内容を視聴確認して貰い、①日本人の食習慣の理解がしやすい ②食事介助の説明がしやすい ③施設でのケアのイメージがしやすいなどの高評価を得ることができた。一方で、【食器・自助具】【主食と副食を混ぜない】食文化の映像や、現地では出会ったことがない【認知症ケアの様子】【90歳、100歳の高齢者】に関する映像などの要望が出された。また、外国人介護労働者の入国前研修の教材作成を目的としたが、介護福祉士養成課程の介護実習前の施設ケアの理解としても利活用できると、研究意義を見出すことができた。今回撮影した動画の具体的な使用方法是検討途中であり、直近の課題である。
- V. 結論** 【文化】【介護環境】【介助の考え方】など視点整理も重要であり、外国人介護労働者の就労定着を促進する上で映像教材の有効性を一部見出すことができた。

学会発表：第31回日本介護福祉教育学会発表予定

倫理審査	☐ 承認番号（ ） ■該当しない
利益相反	■なし ☐ あり（ ）